

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設独自の理念を玄関、事務所、見やすい場所に掲示してある。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例的に開催している。ミーティングを通じて理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議、家族会を通じて伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	今回は、隣近所の方に消防訓練に参加して頂き御協力をお願いした。グループホームからは隣近所に貢献として野路のゴミ拾いは、開設後ずっと続けてきた結果、気軽に声をかけ合う場となった。又、ホームでできた野菜手作り漬物を届けたりした結果、隣近所から野菜、手作り漬物届けて下さったりして支えてもらった。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、文化祭、六月灯、部区の勉強会（成人病）小林へりんご狩り、イルミネーション、外食、町のあらゆる行事に参加し地域活動に力を入れている。芸文館、文化祭には、グループホーム和の作品を出品し、地域交流に努めてきた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	H19年から、高齢者の方を中心としたハーモニカクラブに職員2名が入っている、これを通じ敬老会、老人ホームで披露する場になったり、老人さんをホームに呼んで交流を深めた。又、ボランティア活動の一貫として町の公園に利用者、職員で掃除に出かけている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価、外部評価の意義を管理者は詳しく職員へ伝え改善シートを作成、介護を見直し質の向上に努めている。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議には、職員全員参加してグループホームの状況を報告し、助言を頂いた事に対しては実現に向けてサービスの向上に努めている。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	町の職員に気軽に相談ができ、色々な面で協力して頂いている。町報を届けてもらったり、防災無線を設置して頂いた。成人病の勉強会は利用者、職員が出かけ保健婦さんとの交流もしてきた。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者、職員（3名）勉強会に参加している。資料は玄関に掲示してある。	○ 地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、研修は都合のつく限り全員参加させていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	勉強会の資料を職員に分配し、説明するなどして、虐待のないよう注意している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時に十分な説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	窓口へ苦情箱設置、苦情処理受け付け、宮崎県国民健康保険団体連合会、野尻町役場……掲示している。家族の面会時に話ができる様努めている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	定期的にホーム便り、通信を発行し暮らしぶりを報告している。健康状態については、電話連絡が多い、年に数回管理者が、状況、変化、暮らしぶりなど手紙を出したりして報告してきた。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者は家族会議、面会時に1人1人と話をして苦情、不満など意見を聞くようにし、それを運営に反映させている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回行うミーティングの中で、意見を求め話し合いながら反映している。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	柔軟な対応ができるように、勤務調整を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の顔馴染みの職員で支援していくことができる様に努めている。H20年（異動、離職なし）		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加している。実践者研修3名、実践リーダー研修2名、管理者研修2名、受講済み 今後も段階に応じて、育成するための計画をたて進める予定である。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロックで行っている研修には、なるべく参加している。H21年3月より野尻町グループホームで「びっきょん会」を立ち上げ研修会の計画を立てている最中である。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦をはかるため、月1回のミーティングの際に軽い食事をするなどして工夫している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1日の流れに支障がでないように、リーダーを決めスムーズにすべてが生かされるように工夫している。又、ミーティング、申し送りを通じ、指示をして各自が向上の啓発に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と相談しながら、本人が困っていることはないか不安なことはないか聴きとり ご本人の状況を知るようにしている。入居者基本台帳作成（概往歴、家族構成性格的情緒面、生活歴及び現病症）	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に相談を聴き、家族より困っていること等を聴き受けとめる努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設とも連絡を取りながらその時に応じたサービスの利用ができるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの箸、湯のみ、お茶わんを揃えてもらったり 又、室内にも大事にされていた品物は持ってきてもらいながら本人が安心して生活ができるように、心が和むような室内の雰囲気作りに工夫している。家族歴、生活歴で見きわめながら、本人の意思に伝えるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り、馴染みの料理に対しては、利用者の方に教えてもらう立場になり、ちまき作り、こんにやく作り、そば打ちなどなど挑戦してきた。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	遠足、六月灯では家族に依頼し、協力をもらっている。又、年1回家族が料理されて利用者の方と一緒に食事ができるように催しをしている。眼科受診の依頼。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に見えられた際は、居屋にて、場所を設けお茶を出し、ゆっくり過ごしてもらうように配慮している。ホームから墓参りに行った際は、ご家族の方も一緒に行ってもらい、夫婦で手を合わせられた姿には、職員 良かった…と思う場面だった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、里帰り、地元の勉強会に出かけ、馴染みの人や場所、関係が途切れないように支援してきた。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は殆どホールで楽しく過ごされる。洗濯物たみ、台ふき、車椅子の移動などできない所は互いに助け合える関係にある。職員はトラブルにならないように座られる位置を替えいい関係で過ごされるよう支援をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者にも手作りクリスマスプレゼントを届けてきた。又、ボランティアで朗読に来てもらったり野菜を届けて下さったり支えてもらっている。お付き合いしている家族は多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、職員は生活歴、性格的情绪面などで判断したり毎日の生活の中で気づき、変化を話し合いながら少しでも本人本位に近づけるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味を考慮しながら1人ひとりに生活の中に取り入れてきた。農業されてみえた人9名、今回は、ハガマ、ナベを揃えて手にふれてもらった。又、図書館から借りてきて(昔の暮らし:昔の遊び)本を見ながら回想法に力を入れた結果好評だった。ラッキョ漬けの過程で、土つきラッキョから挑戦してもらい、馴染みの暮らしに取り	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、日誌などで把握し、1人ひとりの過ごし方を提供している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	H20年は、家族、職員(全員)と一緒にアセスメントで意見出し合い介護計画を作成した。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月1回アセスメントを行い、見直しを検討又、変化が生じた場合はプラン変更し、その度家族に話をして捺印をもらうようにしている。(職員全員)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は徹底してきた。その中で気づきは申し送りに記載し情報を共有して介護見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、デイケア、ライフ和と共有し交流を深めている。デイケア→中学校吹奏部一緒に仲間に入れてもらい交流ライフ和→手作りおやつを届けてもらったので、お返しに枝もちを届けて交流した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署、駐在所、役場、保育園、薬局、包括支援センター、郵便局に出かけ交流してくる。保育園へ利用者さんの手紙、職員手作りハンガー、お手玉を届ける、すると、園児が作った首飾りをプレゼントをもらい、いつまでも大事にされていた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティア活動として（職員）老人ホームに出かけ、ハーモニカを披露することにより、一緒にボランティア活動に見えていた方に、グループホーム和でも寸劇をしてほしいとお願いし実現できた。	○	これからも、少しずつ輪を広げて行けるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて助言を頂いてる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が押川病院で、適切な医療を受けられる体制にある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の変化を相談し、内服の調整をして頂いたり眠剤中止の検討など相談してきた。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体が病院のため、特に問題はない。協力体制、連絡は密にしてある。 病院 ⇄ グループホーム 連絡帳で把握できるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院と連携し、早期退院ができるように、又、なるべくグループホームで過ごされるように要望して指示をもらいながら努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方について検討している。利用者1名家族と十分話し合い 又、医師からのムンテラをしてもらい、今後の方針を統一して行く。	○	家族と十分話し合い、私達にできることは、すべて伝え家族の相談になり対応したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化、気づきを医師に相談し、できること、できないことを見極め、話し合いながら方針を決め疼痛緩和、苦しみに対処できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所に移る際には、情報提供をしている。 (入所の際は、サマリーを提供している) 家族とは十分話し合いを行っている。	○	本人、家族と良く話し合い情報提供を行い住み替えによるダメージを防ぐように努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねる事のないように、言葉かけ対応には、注意を払っている。	○	つい、適切でない言葉が聞かれる事がある。今後話し合いながら検討をしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合った、その人らしく1人ひとりの話をゆっくり聞くように心がけている。又、笑顔、喜びにつなげるように支援してきた。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	車椅子で散歩する人、部屋でくつろぐ人、それぞれ利用者のペースに合わせて行動できるように支援している。買い物に行く事で喜びにつなげる利用者に対しては、家族の許可をえて頻回に買物支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出かける際には、自分でできる人には声かけし、お気に入りの、よそゆきの服を着てもらおうと穏やかな表情が見られた。出来ない利用者に対しては、職員の方から、これでいいか、聞きながら対応している。朝は、鏡を見て毎朝、ヒゲ剃り、髪を整えてもらう支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にしてできる役割で料理を作ってもらっている。野菜を切ってもらったり、酢物を作ってもらったりしながら一緒に食事をとり和気あいあいの雰囲気の中で食事ができるように支援している。又、馴染みの料理には力を入れ、出来る所はしてもらい、喜びにつなげるように支援してきた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事が入らない時には、飲み物、おやつに気配りして好みの物を提供している。白飯より、ちらし寿し、赤飯、炊き込みご飯、ピラフ、カレーライス、ずし、喜んで食べられる為、頻回にメニューに入れ提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排尿、排便の排泄パターンを把握しさりげない声かけ支援している。オムツは、できるだけ使用されないよう、日中は全員ホールのトイレで排泄できるようにしてきた。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望があれば入浴日以外でもできる体制をとっている。	○	冬季はむずかしいが夏季は、利用者さんに声かけし夜間入浴。入浴日でない日も支援して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は行事、レクリエーションの声かけをしたり、機能訓練に力を入れてきた、日中はできるだけ活動してもらっている。但し、休息の必要な人は気づきを話し合いながら対応している。夜間不眠の方に対しては、会話、軽いおやつを食べてもらったりして就床を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりの趣味を生かしたり、生活歴から取り出したりして馴染みの作業を取り入れ、できる限り楽しみごとを提供するように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に出かける際は、お金を所持し、好きな物を買うことができるように支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域交流、自然との交流、野路のチリ拾い、ノビル摘み花の手入れ、その人に応じた対応をしている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>小林生駒高原へりんご狩り、家族、利用者全員喜んで下さった。又、地域紙屋に成人病の勉強会にでかけ部区の人から肩を寄せ合って声かけして頂いた。これは大きい収穫につなげた。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は自由、手紙は家族へ暑中見舞、年賀状を書いている（全員）。お世話になった保育園、ハーモニカに来て下さった老人さん、ボランティアに来て下さった方に手紙を書いて届ける。又中でも寸劇に来て下さった方からは励ましの温かい手紙を頂きやり取りが続いている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>多くの方に声かけし、気軽に来て下さるよう努めている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は、職員全員で話し合いながら身体拘束のないサービス提供をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけた事はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は殆どホールで過ごされている 又、休息を要する人で目の離せない利用者に対しては、畳の室コタツで過ごしてもらうようにしている。夜間は、頻回の見守りの徹底を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は目につきにくい場所へ保管している。一人ひとりに応じて、包丁、ハサミを使用する際は必ず横にスタッフが付くようにして事故のないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットを提出し皆で把握するしくみにして、事故防止に取り組んでいる。なるべく研修にも参加し、皆で共有してきた。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当……実施済み 管理者がいない時は自己判断で済ませる事のないように、病院の看護師に連絡する体制になっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練には、隣近所の方にも参加して頂いて協力をお願いをした。災害にそなえて非常品を一人ひとり手製の袋に入れ準備は一通りしている。	○	地震については、地域推進会議でも話がでた、そのままになっている、今後考えて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会、面会時に現状を説明をして対策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は即く病院へ連絡するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者は、服薬について重要な点は、常に話をして全員で周知している。(副作用、食前薬について、お茶で飲んだらいけない薬など)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因について話し合いをしている。水分補給、適度の運動などで工夫し、便秘薬を使用している利用者に対しては排泄パターンを把握し服用させ、排泄するまでは責任をもってトイレで排泄するようにしている。	○	野菜を食べられない利用者に対してミキサー食を提供するなどして、これからも食べ物については十分話し合いをして行きたい。2/4研修会で腹圧を加えるため、足ふみ台を使用し、前屈めの体勢がいいと学ぶ、さっそく足ふみ台を準備し試して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきを支援している。常に清潔にし二次感染防止に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事には、皆で力をいれている。食べる量、栄養、バランスについては十分考慮し提供している。 水分は1日 6～7回程度	○	夏場 水分を自由に飲んでもらうようにキーパー、各自のコップをホールに置いているが、活用することは少なく、これから検討し何かいい方法を話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、職員、全員インフルエンザの予防接種を受けている。H19年度より年に1回感染予防の対策について、院長より勉強会をしてもらっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指の消毒、調理用具に対しての消毒は徹底し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の廻りには、季節の花たえることなく気配りしている。年よりの方でも入りやすいようにスロープがつけられている。玄関には、手作りだけの飾りつけし、心が和む一時になるように工夫してきた。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気でも過ごされるよう心が和める場所となるように、すべて装飾は手作りにした。畳の室の活用、冬はコタツ、夏は昼寝ができるようにゴザを準備したりしてきた。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてある、ゆったりとテレビを見たり、音楽を聴いたり、談話されたり思い思いに過ごされるように居場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者の方が使用されていた茶わん、湯のみ、箸 等を持ってきてもらい、部屋には使い慣れた好み の道具をそろえて、その人らしい室で安心して過 ごされるようにしてきている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気に努めている → 各室換気扇設置 温度調節 → 各室に温度計を置いてある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ、浴室、手すりが設置して あり、出入口にはスロープがつけてある。安全 で動けるよう、障害物がないように整理整頓して いる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室、トイレ → 表札 浴室はのれんをかけたたりして、分かりやすいよ うにして混乱を防ぐ工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花の手入れをしたり、野菜を見にいたり、(今 年はトマト、スイカ、ナス、見事な野菜ができ た)手に取り喜びにつなげた。日光浴するなど 楽しんで生活ができるようにしてる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム和では、地域の一員として地域に出かけ十分交流を深めてきた。文化祭、芸文館、げんきげんき芸術祭にも利用者の作品を出品し喜びにつなげることができた。行事には敬老会、六月灯、文化祭に参加することにより、地域の方から支えてもらってきた。又、花火大会、イルミネーションと夜も出かける 催しを加えた。馴染みの料理については、こんにゃく作り、ちまき作り、枝もち作り、干し柿、梅干、ラッキョ漬、甘酒作りと色々と季節ごとに挑戦した、その度に利用者の方に先生

になってもらい、職員は教えてもらう立場になり、利用者の方が胸をはっていい気分ですごされるように努めてきた。

H20年は特別、りんごの木を見た事がないと話が出て、さっそく生駒高原にりんご狩りに行く りんご園の方に施設の利用者に見せたい！とお願いして、りんご園を案内していただき、りんごが目の前になるように車を止めさしてもらい見せた。大きい声をはり上げ大喜びされる りんご園の中に車を止め食べてもらう。「生きてて良かったー」といって下さり、職員はありがたい言葉に涙が出た。皆で喜びを共感できた日になった。

地域の貢献としては、地域のチリ拾い(月2回)を4年半続けている。又、公園の掃除には、竹の皮弁当を持ってでかけた 園児、中学生との交流、ボランティアで寸劇、ハーモニカ、大正琴と色々な面からたくさん支えてもらった一年だったと思います。